



ぴよんちゃん通信



福崎町社会福祉協議会
令和 3 年 5 月号

福崎町社会福祉協議会の子育て支援事業は、毎週金曜日に『トランポリンと森のひろば』の活動をしています。主に 1・2 歳児の子どもたちが入園までの日々を保護者と一緒に過ごします。親子でミニトランポリン・手遊びなど楽しんだら、スポーツ公園で遊びます。推進員のちょこっとおしゃべりもあり、先月には福崎図書館にある 4 冊の書籍を紹介しました。そのうちの 1 冊の著者である赤木和重先生（神戸大学）ご自身による紹介文が、とても面白かったのでお知らせします。

2 月に『子育ての「ノロイ」をほぐしましょう：発達障害の子どもに学ぶ』という本を、日本評論社から出版いたしました。「ノロイ」というタイトルを付けたのは、いくつかの理由があります。その一つとして、社会がじわじわと、しかし確実に生きづらいものになっていることがあります。加齢やコロナ感染拡大など個人的な事情や特殊事情を越えたところでの、生きづらさが日本に横たわっているように思います。（中略）この生きづらさは、子育てにも及んでいると感じています。「生活の厳しさ」だけでなく、社会の「正論」によって子育てが息苦しくなっているところがあります。例えば、「こどもの『できる』ことをふやさなければいけない」「こどもを『ちゃんと』させておかないと、後で困る」「だらだらさせていたら、ひきこもってしまう」など、根拠ははっきりしないが、それっぽく聞こえる社会の常識がまんえんしています。それを、本書では「ノロイ」と称して、それをほぐそうと、試みました。

私たちが子育てで（保育や教育も含みます）で、しんどくなっているとき、知識や技術が足りないこともあるでしょう。でも、それ以上に、「～すべき」「～しなければならない」と思い込んでいることが影響しています。そんなときに、本書を見て、気持ちを軽くしてもらえればと思います。私の「トホホ」な子育てエピソードも満載です。脱力しながら、子育て（保育や教育）の意味を考えなおすきっかけになればと思って執筆しました。同時に、1 人ではノロイはなかなかほぐせないものです。（それぞれの場で）集団的に学びながら、自分が、どんな「～すべき」にとらわれているのかを気づければ、と思います。

（赤木 和重 先生 談）

「4 月に入園した子どもが、連休明け登園を渋ったとき、『共感、共感！』と思ったけど、大声で泣くので、『プッチッ！』大声でわめいて怒ってしまった。」と、ママ。人間の生命を産み育て、その死を看取るという労働＝家事・育児・介護（ケア労働）は、たいてい女性が担い、それらは、対価、評価、感謝なき労働と言われてきました。『ハッピーな介護者でなければ、ハッピーな介護はできない』ハッピーでない介護者のしわ寄せは、弱者・要介護者・弱者である子どもに行きます。森のひろばなど子育て支援の場では、疑問、不満、イライラを声に出していきましょう。一緒に学び、気づき、私たちがまず、ハッピーになることを大事にしていきたいと思っています。 今月も、お待ちしております。

トランポリンと森のひろば（緊急事態宣言中は第 2 体育館でのトランポリンは中止）

スポーツ公園にて 10:00～ 予約なし

* 日時；5 月 7 日、14 日、21 日、28 日（金）

* 準備；お茶、子どもさんに応じて着替え、昼食は自由です